

浅野：改めまして浅野でございます。本日は2025年3月期第2四半期の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、オンラインでご参加いただいております皆様にも御礼申し上げます。

エグゼクティブサマリー



2025年3月期 第2四半期実績

大幅な増収増益、売上高・営業利益・四半期利益ともに過去最高

前年同期比 売上高：114.0%、営業利益：131.6%、四半期利益：117.2%

- 試薬売上上の伸長や新興国の成長機会の獲得により、全地域で増収を達成、ビジネスは好調に推移
- プロダクトミックスやコストダウンにより、原価率が改善し、営業利益は大幅増益

2025年3月期 業績予想

営業利益を30億円上方修正し、通期900億円へ変更 各施策は順調に進み、グローバルで持続的な成長を見込む

- 試薬売上高の高伸長による原価率の改善
- 欧米における血液凝固分野の拡販や市場成長が見込まれる新興国が引き続き貢献
- 社内デジタル化や新製品開発・基盤研究など、次のステージに向けた投資を継続

5

それでは早速ですが、ご説明に入りたいと思います。まず、エグゼクティブサマリーです。5ページへお進みください。2024年度上期の売上は対前年比114.0%の2,424億円、営業利益は対前年比131.6%の445億円、四半期利益は対前年度117.2%の260億円で、大幅な増収増益。売上高、営業利益、四半期利益ともに過去最高を達成いたしました。売上は、試薬売上上の伸長や新興国の成長機会の獲得により、全地域で増収を達成し、ビジネスは好調に推移いたしました。営業利益は、試薬売上上の伸長によるプロダクトミックスやコストダウンにより、原価率が改善し、大幅な増益を達成いたしました。

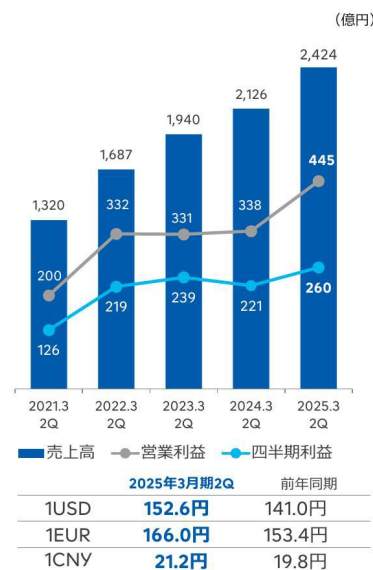
2024年度の通期業績予測につきましては、上期の営業利益が大きく上振れて着地したことを鑑み、通期の営業利益を30億円上方修正し、900億円といたします。引き続き、各地域での試薬売上の高い伸長に加え、欧米で開始した血液凝固分野の自社ブランドでの販売効果、新興国での高い伸長など、グローバルでの成長を見込んでおります。

決算総括（対前年）



(億円)	2025年3月期2Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	2,424.7	100%	2,126.9	100%	114.0%
売上原価	1,111.8	45.9%	1,016.8	47.8%	109.3%
販売費及び一般管理費	723.7	29.8%	625.9	29.4%	115.6%
研究開発費	152.3	6.3%	150.1	7.1%	101.5%
その他の営業損益	8.1	0.3%	4.1	0.2%	197.2%
営業利益	445.0	18.4%	338.2	15.9%	131.6%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	260.0	10.7%	221.8	10.4%	117.2%

- **売上高** : XRTMシリーズ・試薬売上が好調、新興国の伸長もあり、全地域で増収、過去最高を達成
- **営業利益** : 粗利益の増加などにより、対前年+106億円の大幅増益、過去最高を達成
 - ✓ 為替の影響 売上高 +128.2億円、販管費 +35.7億円、営業利益 +56.4億円
 - ✓ 前年同期為替レート適用の場合 売上高 108.0%、販管費 109.9%、営業利益 114.9%
- **四半期利益** : +17.2%の増益 為替差損益: △40.3億円（前年同期比△53.8億円）



7

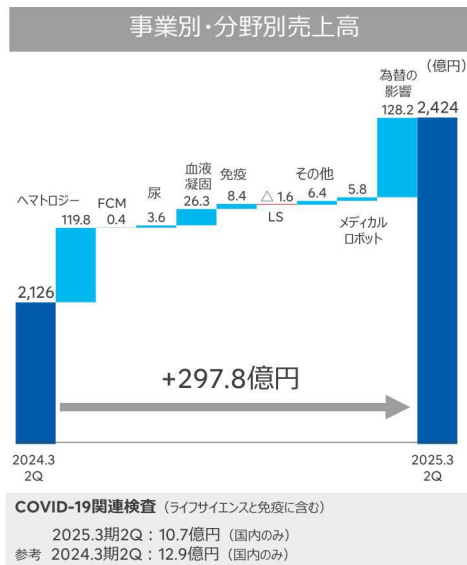
これより決算概要についてご説明します。

7ページへお進みください。まず決算総括です。売上は、ヘマトロジー分野のXRシリーズが1Qから引き続き好調に推移したことや、インドやブラジル、サウジアラビアなどの新興国の成長により、全地域で増収を達成いたしました。為替の追い風もあり、対前年14%増の2,424億円となり、過去最高の売上高を達成いたしました。

営業利益についても、増収による粗利の増加に加え、プロダクトミックスやコストダウンなどにより原価率が改善し、対前年31.6%増の445億円となり、こちらも過去最高を達成しました。為替の影響を除きましても、売上高は対前年比108%、営業利益は対前年115%と、ビジネスは好調に推移いたしました。

また、四半期利益は対前年17.2%増の260億円となりました。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



XRシリーズ効果や新興国の伸長によるヘマトロジー分野の大幅伸長に加え、血液凝固や免疫分野の伸長により、増収

(億円)	2025年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	2,424.7	100.0%	114.0%	108.0%
ヘマトロジー	1,485.3	61.3%	115.9%	109.4%
FCM	15.8	0.7%	109.5%	103.0%
尿	195.5	8.1%	108.2%	102.0%
血液凝固	367.5	15.2%	113.4%	108.1%
免疫	117.2	4.8%	111.8%	108.1%
生化学	17.7	0.7%	114.5%	110.9%
ライフサイエンス	105.8	4.4%	103.6%	98.4%
その他	102.5	4.2%	111.2%	105.2%
ダイアグノスティクス事業	2,407.6	99.3%	113.8%	107.7%
メディカルロボット事業	17.1	0.7%	152.5%	152.5%

8

8 ページへお進みください。このスライドは、事業別・分野別の売上状況です。ヘマトロジー分野においては、XR シリーズを導入した地域や、新興国で大きく伸長いたしました。血液凝固分野や免疫分野も試薬の売上が好調に推移し、大幅増収となりました。メディカルロボット事業は、後ほど説明いたしますが、堅調に伸長し増収となりました。

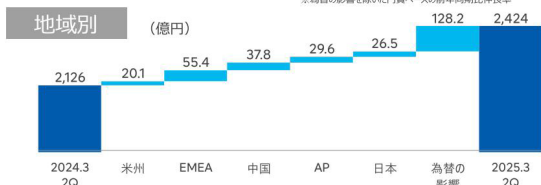
売上高の増減要因（地域別・品目別）



引き続き試薬売上が2桁伸長し、グループの成長をけん引

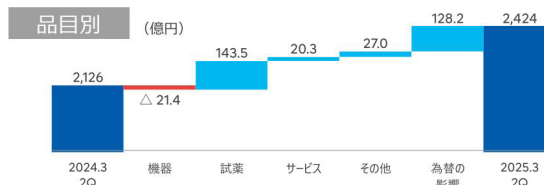
(億円)	2025年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,424.7	100.0%	114.0%	108.0%※
米州	637.4	26.3%	111.4%	103.1%
EMEA	691.2	28.5%	116.0%	107.2%
中国	545.4	22.5%	114.8%	108.0%
AP	247.4	10.2%	119.5%	114.3%※
日本	303.2	12.5%	109.6%	-
機器	475.9	19.6%	100.9%	95.4%※
試薬	1,507.0	62.2%	117.1%	111.2%※
サービス	333.4	13.8%	114.0%	107.0%※
その他	108.3	4.5%	141.8%	135.4%※

※為替の影響を除いた円ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因

米州	- ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、増収を達成 - 血液凝固分野の試薬も、販売を開始
EMEA	直販効果や血液凝固OEM契約などにより、ヘマトロジー・血液凝固分野を中心に試薬が2桁伸長し、増収を達成
中国	ヘマトロジー分野の2桁伸長や血液凝固分野の伸長により、増収を達成
AP	インドをはじめ、各国の需要は強く好調に推移、全分野において2桁伸長、増収を達成
日本	ダイアグノスティクス事業はヘマトロジー・血液凝固・免疫分野が好調に推移。メディカルロボット事業も伸長し、増収を達成



9

9 ページへお進みください。次に、地域・品目別の売上増減要因です。各地域の詳細は、後ほどのスライドでご説明いたしますが、現地通貨ベースで、枠に囲ったところですが、中国、EMEA、日本で 2 桁に近い成長、アジアパシフィックは特に好調で、対前年 14.3%増と大幅な増収を達成いたしました。米州は、機器売上が一時的に減収になり、少し弱い成長となりましたが、下期には回復する予定です。

品目別では、機器は後ほどご説明いたしますが、一時的要因により、対前年減収となったものの、XR シリーズの導入効果や、拡大する新興国の需要獲得により、リースでの設置なども含め、設置台数は増加し続けております。この結果、試薬は大幅な増収となっております。

米州（地域別）



(Million USD)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	417.8	405.4	103.1%	111.4%
機器	88.9	108.0	82.3%	89.0%
試薬	212.3	191.7	110.7%	119.7%
サービス・その他	116.5	105.6	110.3%	119.4%

機器売上は一時的に減収も、機器設置台数増加に伴う試薬の2桁伸長により、増収



● 機器

✓ 前年度、大型案件があった尿分野の反動に加え、北米においてヘマトロジー分野の一時的な納品タイミングの遅延により減収も、受注は引き続き好調。ブラジルも継続的に伸長のため下期の回復を見込む

● 試薬

✓ ヘマトロジーや尿分野の機器設置台数増加に伴い、2桁伸長を達成し、増収

✓ 血液凝固分野も伸長、アミロイドβ検査試薬*も、堅調に推移

*2.2 Million USD

10

10 ページへお進みください。ここより、地域別のトピックスについてご説明いたします。まず、米州ですが、機器売上は尿分野の前年度大型案件の反動や、顧客施設においてコロナパンデミックで滞ってありました大型施設の設置が優先的に進んだことから、既に当社受注済みにもかかわらず、当社システムの設置に遅延が生じ、上期は減収となりました。しかしながら、既に多くの受注残を抱えておりますし、米国におけるヘマトロジー分野のリテンション率はほぼ 100%、案件の勝率も約 90%と圧倒的な強さを維持していることから、下期からの回復を見込んでおります。

一方、試薬売上は、機器の設置台数増加により2桁伸長し、増収となりました。また、アルツハイマー病検査関連試薬も堅調に推移しておりまして、上期で2.2MUSDの売上となりました。

EMEA（地域別）



(Million EUR)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	416.5	388.4	107.2%	116.0%
機器	91.9	96.6	95.1%	102.5%
試薬	260.8	230.2	113.3%	122.7%
サービス・その他	63.6	61.4	103.6%	112.3%

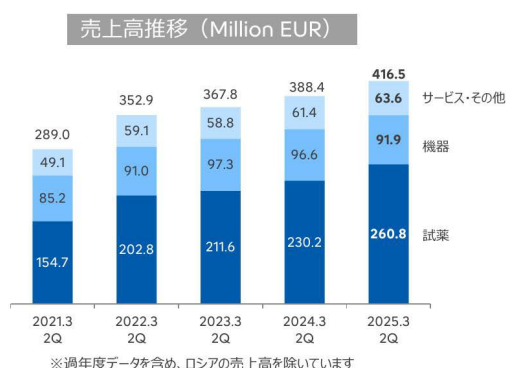
ヘマトロジー・尿・血液凝固分野の試薬が2桁伸長し、機器の減収を補い、増収

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野においてXRシリーズの販売が好調に推移した他、血液凝固分野もOEM契約の効果により伸長も、イタリアの直接販売への切替に伴い、尿分野が一時的に減少し、減収

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野において、直販化したサウジアラビアなどで好調に推移
- ✓ 機器設置台数増加によりスペインなどで尿分野が伸長した他、血液凝固分野のOEM契約による販売も好調に進展し、増収



11

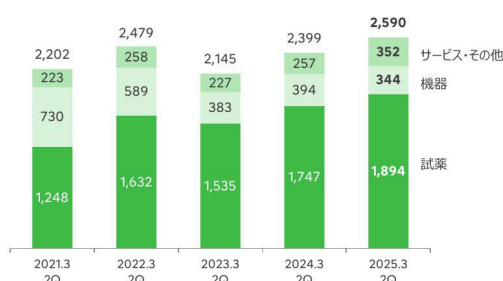
11 ページへお進みください。次に EMEA につきましては、ヘマトロジー、尿、血液凝固分野の試薬が好調に推移し、増収となりました。機器売上は尿分野において、イタリアでの直接販売への切り替えに伴い、一時的に減収となりましたが、XR シリーズの販売が好調なヘマトロジー分野や、直接販売を開始した血液凝固分野が順調にスタートを切り、伸長いたしました。

中国（地域別）



(Million CNY)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	2,590.8	2,399.1	108.0%	114.8%
機器	344.6	394.3	87.4%	92.6%
試薬	1,894.0	1,747.0	108.4%	115.4%
サービス・その他	352.0	257.6	136.6%	144.7%

売上高推移（Million CNY）



機器は、1Qの影響などにより減収も、ヘマトロジー分野を中心に試薬が好調に推移し、増収

● 機器

- ✓ 現地生産化したヘマトロジー分野ローエンドモデル（XN™-Lシリーズ）および尿分野の販売台数が大幅増加
- ✓ 現地生産品を販売開始した血液凝固分野は、2Qから回復基調へ。さらに免疫分野のHISCL™現地生産品認可取得も完了し、下期の回復を見込む

● 試薬

- ✓ 3級病院施設数や受診者の増加に加え、機器設置台数の増加もあり、ヘマトロジー分野や血液凝固分野が伸長し、増収

12

12 ページへお進みください。中国におきましては、機器は 1Q の影響もあり減収となりましたが、2Q 単独では前年度に近いレベルにまで回復いたしました。

2023 年度に現地生産を開始したヘマトロジー分野の中小型モデル XN-L シリーズの販売台数が大幅に増加した他、尿分野においても、同じく現地生産品であります UF シリーズ、並びに UC シリーズの販売が伸長しております。また、今年度 1Q に出荷を開始した血液凝固分野の現地生産品につきましても、2Q から販売台数が伸長しておりまして、機器売上は回復基調にあると考えております。

試薬は、ヘマトロジーや血液凝固分野を中心に好調に推移し、増収を達成いたしました。

中国における検体検査市況



3級病院での高いシェアおよび外来患者数の増加を背景に、ヘマトロジー試薬売上は伸長
下位市場を対象に製品ポートフォリオを拡充



政府調達方針

- ✓ 機器の現地生産品目の拡大

集中購買

- ✓ 直接販売・サービスへのシフト
- ✓ 試薬の自社化による原価率低減

腐敗防止運動

- ✓ 市場環境の健全化は当社に有利

医療サービス価格の最適化 (DRG/DIP) *

- ✓ ヘマトロジー分野への影響は軽微
- ✓ 直販シフトやコストダウンで対応

*2010年代から導入。医療保険の支払い方式改革の推進の一つ

13

13 ページへお進みください。このスライドは中国における検体検査の状況についてご説明しているスライドです。試薬売上が非常に好調な背景として、病院数および外来患者数の増加が挙げられます。当社が高いシェアを維持しております3級病院におきましては、その数は現在も増加しております。また、各病院の外来患者の数も増えており、その結果、外来患者数の6から7割を占める3級病院全体で患者数が増加しております。統計によれば、例えば1から4月で対前年18%増加しており、その結果、われわれの検査試薬も増加しております。今後も検査数の増加は見込まれると考えております。

一方、下の方にお示している、従来より展開されている各種政策につきましては、順次対応を進めておりまして、今後、DRGなど医療制度の変更につきましても、モニタリングしながら、しっかりと対応していきたいというふうに思っております。

AP（地域別）



※ロシア売上高を含むデータへ変更

（億円）	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	247.4	207.1	119.5% (114.3%)
機器	50.6	45.4	111.5%
試薬	168.8	138.6	121.8%
サービス・その他	27.9	23.0	121.5%

*（）は為替の影響を除いた場合

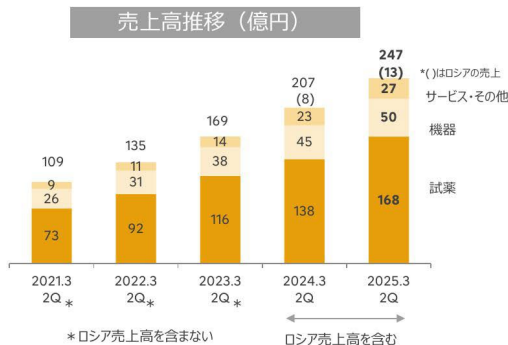
医療インフラへの投資の継続もあり、機器、試薬、サービスにおいて、2桁伸長を達成、インドは対前年+35%の伸長

● 機器

- ✓ ハマトロジー分野は、オーストラリアやタイなどを中心に伸長
- ✓ 尿分野で大型案件を獲得したインドの他、血液凝固分野はタイなどの東南アジアを中心に好調に推移

● 試薬

- ✓ ハマトロジー分野は、機器設置台数の増加に伴い、インドやインドネシア、フィリピンなどで大幅伸長
- ✓ 免疫分野が機器設置台数の増加により好調に推移するなど、全分野で増収



14

スライド 14 へお進みください。アジアパシフィックにつきましては、各国政府の医療インフラ投資が継続しており、機器、試薬、サービスともに好調で、2桁伸長を達成いたしました。特にインドは好調で 30%を超える成長となっております。

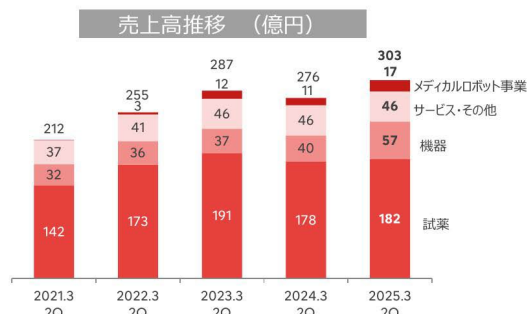
機器は、ハマトロジー分野でオーストラリアやタイなどを中心に伸長した他、インドでは大型案件を獲得した尿、血液凝固分野も伸長いたしました。

試薬につきましても、各地域の機器設置台数が増加したハマトロジー分野に加え、免疫分野も好調に推移いたしました。アジアパシフィック地域は存在感がある規模となってきており、当社の今後の成長を牽引する地域として好調な推移が期待されます。

日本（地域別）



(億円)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	303.2	276.6	109.6%
ダイアグノスティクス事業	286.1	265.4	107.8%
機器	57.2	40.6	140.9%
試薬	182.2	178.2	102.2%
サービス・その他	46.6	46.5	100.2%
メディカルロボット事業	17.1	11.2	152.5%



ダイアグノスティクス事業は、ヘマトロジー分野の機器の伸長に加え、血液凝固・免疫分野の試薬も伸長。メディカルロボット事業も好調に推移し、2桁増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、XRシリーズの販売が好調に推移し、対前年+98%と大幅増収

● 試薬

- ✓ 血液凝固分野で採用項目の拡大や、免疫分野での機器設置台数増加および採用項目の拡大により伸長し、増収

メディカルロボット事業

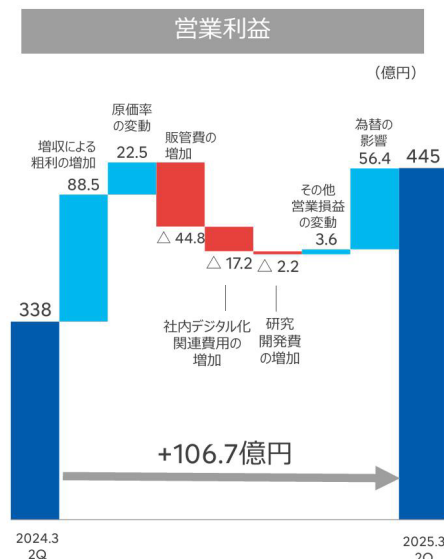
- ✓ 2Qで新たに3台導入、上半期導入台数：9台、累計台数：64台
- ✓ 導入台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上が増加

15

15 ページへお進みください。最後に日本におきましては、XR シリーズの販売が大変好調で、ヘマトロジー分野の機器が対前年プラス 98%と大幅に伸長いたしました。試薬は、血液凝固、免疫分野での採用項目の拡大により増収となりました。

メディカルロボット事業については、2Q で新たに 3 台導入され、上期計で 9 台、累計設置台数は 64 台となりました。導入台数や症例数の増加に伴い、サービスや鉗子などの消耗品の売上も増加し、対前年 52%伸長いたしました。

営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：+88.5億円
- 原価率変動による影響：+22.5億円（1.0pt改善）
 - ✓ 改善要因：プロダクトミックス 1.1pt、製品等の原価改善 0.4pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.2pt、輸送費 0.3pt
- 販売管理費の増加：△44.8億円
 - ✓ 労務費：規模拡大に伴う人員増や単価増などによる増加：約32億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約9億円
- 社内デジタル化関連費用の増加：△17.2億円
- 研究開発費の増加：△2.2億円
 - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業損益の変動：3.6億円
- 為替の影響：+56.4億円

16

16 ページへお進みください。営業利益の増減要因です。営業利益ですが、売上増による粗利の増加やプロダクトミックスやコストダウンによる原価率の改善などにより、大幅増益となりました。販管費は、ビジネス拡大に伴う人件費や販売促進費の増加などにより、前年度より44億円増加、加えて、社内のデジタル化費用もグローバルでの実装が進みまして17億円増加しておりますが、計画内に収まっております。また、研究開発費は、引き続き研究開発テーマの精査を進めており、昨年度並みの実績となりました。最終的には為替のプラス効果もあり、約106億円の大幅な増益となりました。

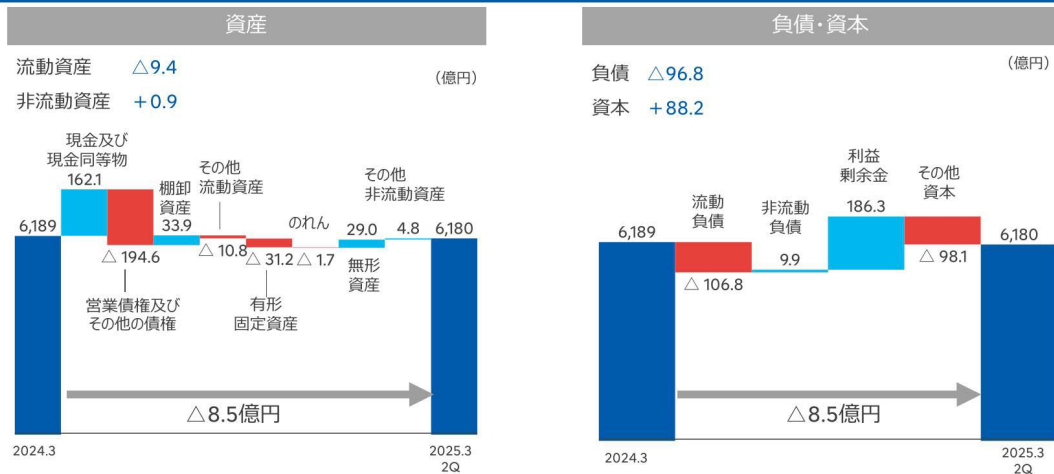
連結財政状態計算書の増減要因



資産：現金及び現金同等物は増加も、売上債権の回収により営業債権及びその他の債権が減少

負債：デジタル化関連費用の支払などにより、流動負債が減少

資本：為替の影響により現地法人の純資産減少も、利益剰余金が増加



17

17 ページへお進みください。連結財政状態計算書です。連結財政状態ですが、売上債権の回収により、営業債権およびその他の債権が減少いたしました。

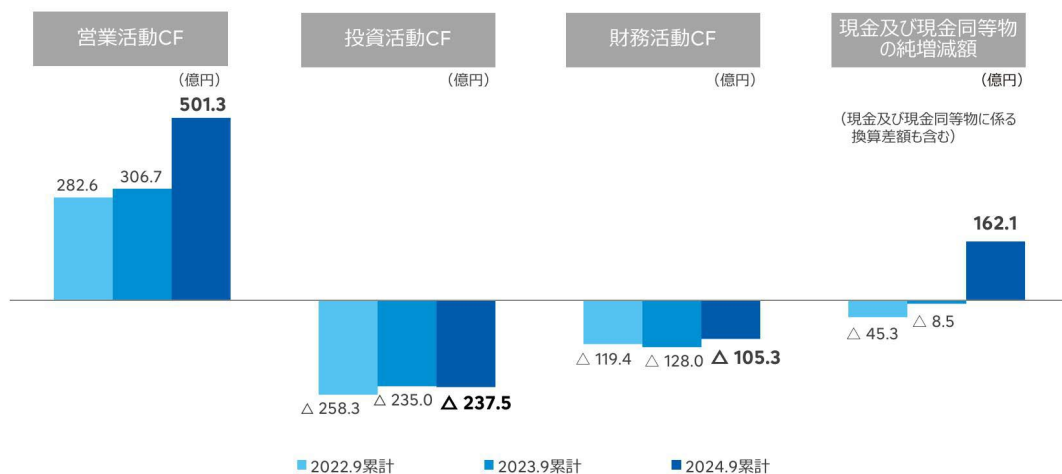
負債は、流動負債の減少により 96 億円減少し、資本は利益剰余金の増加などにより、88 億円増加いたしました。

キャッシュフローの推移



営業活動CF：税引前利益の増加や売上債権の回収により、増加

投資活動CF：社内デジタル化、新興国の拠点整備など前年同等の投資を実施



18

18 ページへお進みください。キャッシュフローの推移です。営業キャッシュフローは、税引前利益の増加や売上債権の回収により、前年度より 194 億円増加いたしました。また、社内デジタル化や、新興国における拠点整備など、前年同等の投資を実施してまいりました。これらの結果、期末の現金および現金同等物は 162 億円となり、増加しております。

参考：ニュースリリース・トピックス（2024年7月～10月）



既存事業の強化

- ・ インドでシスメックスグループ最大規模の生産拠点が竣工（AP）
- ・ シスメックスとキアゲン社、遺伝子検査領域におけるグローバルアライアンス契約を締結
- ・ アルツハイマー病治療薬である抗アミロイドβ抗体薬の副作用リスクを予測する検査試薬の製造販売承認を申請（日本）
- ・ ヘパリン療法の副作用判定に寄与する検査試薬「HISCL™ HIT IgG試薬」を発売（日本）

新規事業の拡大

- ・ 手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」マレーシアにおける販売承認を取得（AP）

サステナビリティ

- ・ 「Science Based Targets initiative」の認定を取得
- ・ GPIFが採用する全てのESG指数の構成銘柄に選定

19

19 ページへお進みください。このスライドには、ご参考までに、7 月から 10 月までのニュースリリース、トピックスを掲載しております。

市場成長をとらえ2桁伸長、高成長を継続 各地域で展示会など積極的な販促活動を展開

インド売上高推移 (億円)



ブラジル売上高推移 (Million USD)



中東・トルコ・アフリカ(META)売上高推移 (Million EUR)



*META: Middle East, Turkey, Africa地域

■ インド生産拠点：準備は順調に進む



■ インド学術セミナー：オンライン含めて数千人の参加



■ ブラジル、チリの展示会の様子



■ サウジアラビアの展示会の様子 (Blood-Science)



21

ここから成長戦略の進捗と取り組みについてご説明いたします。当社の成長戦略として三つの成長戦略「新興国戦略」、「既存事業の強化」、「新規事業の拡大」ということを挙げておりますが、それぞれについてご説明いたします。

21 ページへお進みください。まず、新興国戦略です。インド、ブラジル、そして中東・アフリカ地域を当社では META と呼んでおりますが、これらの地域において、販売活動を強化した結果、上期 2Q では、それぞれプラス 35%、プラス 26%、プラス 16%の成長を遂げることができました。インドの新工場も竣工し、現在は生産開始に向けての準備を進めております。また、中南米や中東など各地域での展示会などで積極的な販促活動を行っており、下期以降も引き続き好伸長が見込まれております。

既存事業の強化



ヘマトロジー分野

XRシリーズは各地域とも好調なスタート、次年度は米州での展開を予定

日本：XE・XNシリーズからの切替需要もあり、機器売上は対前年＋98%、圧倒的な存在感

AP：オーストラリア、タイ、マレーシア、インドネシアで販促開始、導入が進む

EMEA・中国：4月の販売開始後の導入は順調に推移、販売台数は四半期毎に増加



多項目自動血球分析装置
XRシリーズ

免疫分野

アルツハイマー病検査など地域特性に応じた取り組みを進めるとともに、富士レビオHD社との協業も推進

中国：計画よりも早く、HISCL（現地生産品）の認可を取得、今期中の出荷に向けて順調に推移

AP：ユニーク検査項目などの展開により、機器、試薬ともに2桁伸長を達成

日本：心筋梗塞や肝炎検査の採用項目拡大により、伸長。



全自動免疫測定装置
HISCL-5000

ライフサイエンス

QIAGEN社との遺伝子検査領域におけるグローバルアライアンスを推進中



22

22 ページへお進みください。次に二つ目の戦略の既存事業の強化です。

まず、ヘマトロジー分野は、ここに記載の通り、各地域で XR シリーズの販売が好調に推移しています。次年度はいよいよ米州での販売開始を予定しておりますので、グローバルな伸長が期待できます。

免疫分野は、これまで中国、アジアを中心に HISCL の販売を進めてきておりますが、この度、中国において計画よりも早く HISCL-5000 の現地生産品の認可を得ることができました。現在、富士レビオ社との連携を進めながら项目开发も進めております。さらに、アルツハイマー病検査においては欧米での展開を進めております。

ライフサイエンス分野では、QIAGEN 社とのグローバルアライアンスを締結し、具体的な協業可能性について協議しております。この協業をベースに、ライフサイエンスの収益化を図っていきたいと思っております。

既存事業の強化



血液凝固分野

米州・EMEAではOEM契約の効果もあり、新たなステージへ

日本、中国、APも各施策により、継続的な成長を期待

EMEA：新規獲得が順調に進み機器・試薬共に増収 対前年+20%伸長

米州：入札案件の獲得実績も出始めており、下期に向けて売上は伸長する見込み

中国：現地生産品（CNTMシリーズ）の上市効果により、機器需要は回復

日本：ヘマトロジー分野と血液凝固分野の融合装置への期待は高く展示会でも好感触

AP：オーガニックな急成長を取り込み、さらに採用項目の拡大などにより、2桁伸長を継続

■ 日本の展示会の様子（Blood-Science）



23

23 ページへお進みください。血液凝固分野です。シーメンス社との OEM 契約の効果や、各地域での取り組みにより、着実に伸長しております。OEM 契約の効果につきましては、EMEA で新規獲得が順調に進んでおりまして、機器・試薬ともに増収し、血液凝固分野での売上が対前年 20%伸長いたしました。米州におきまして、入札案件の獲得実績が出てきており、上期の売上としては前年同等でしたが、順調に受注を増やしていることから、下期以降実績が上がってくるものと見ています。また、その他の地域においても、成長に向けた取り組みを進めております。

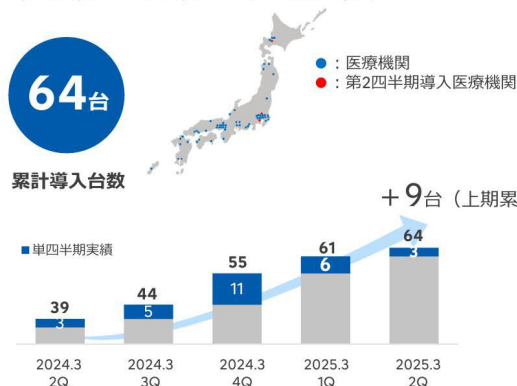
新規事業の拡大（メディカルロボット事業）



日本は引き続き好調に推移、海外市場への導入準備も着実に進捗

● hinotoriの導入状況

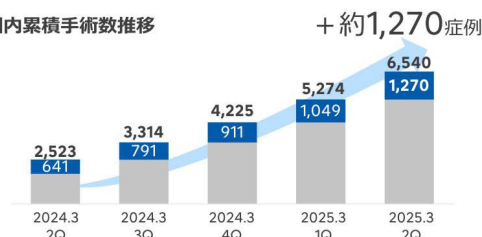
- ✓ 全国の大学病院、基幹病院への導入が着実に進み、系列病院や一般病院への導入地盤を構築



● 海外展開計画

- ✓ 2024年3月期 シンガポールでの認可
- ✓ 2025年3月期 マレーシアで認可取得（2024年8月）
欧州への薬事申請予定
- ✓ 2026年3月期 欧州への市場参入、FDAへの薬事申請
- ✓ 2027年3月期 米州市場への参入開始

国内累積手術数推移



24

24 ページへお進みください。メディカルロボット事業です。2Q で設置予定のシステムの一部が3Q にずれ込んだ関係で、2Q では設置は3台となりましたが、上期全体で設置が9台になっております。

hinotori の受注は順調に進んでおりまして、下期に期待できる内容になっております。

累積手術数も増加しておりまして、上期末時点で6,500症例を超えました。

また、海外展開につきましては、この8月に新たにマレーシアでの認可を取得しました。既に認可を取得しておりましたシンガポールでは、先日、初手術が成功しました。アジアでの展開をさらに進めるとともに、欧州への薬事申請も今年度中に行う予定です。

2025年3月期 通期業績予想修正



緑字：期初公表（2024年5月）からの変更箇所

原価率の改善などにより、通期の営業利益は期初公表から+30億円の上方修正

(億円)	2025年3月期 上期 (4月-9月)			2025年3月期 下期 (10月-3月)		2025年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対計画 進捗率	修正公表	構成比	修正公表	構成比	対前年	対期初公表
売上高	2,424	100.0%	102.3%	2,676	100.0%	5,100	100.0%	110.5%	±0
売上原価	1,111	45.9%	-	1,249	46.7%	2,360	46.3%	107.8%	△10
販売費及び 一般管理費	723	29.8%	-	786	29.4%	1,509	29.6%	112.9%	△10
研究開発費	152	6.3%	-	188	7.0%	340	6.7%	108.3%	△10
その他営業損益	8	0.3%	-	1	-	9	0.2%	82.9%	±0
営業利益	445	18.4%	120.3%	455	17.0%	900	17.6%	114.9%	+30
投資計画	設備投資 500億円			減価償却費 400 億円					

- 想定為替レート

	通期 (2024年5月公表)	通期 (2024年11月修正)	下期 (2024年5月から変更なし)
1 USD	147.0円	149.8円	147.0円
1 EUR	158.0円	162.0円	158.0円
1 CNY	20.4円	20.8円	20.4円

- 為替感応度の概算値（年間）

	売上	営業利益
USD	8.0億円	1.4億円
EUR	5.5億円	1.0億円
CNY	57.5億円	42.1億円

26

以上を踏まえた 2025 年 3 月期の業績予想です。

26 ページへお進みください。通期の業績予想ですが、下期は機器の売上構成が増えることが予想されるため、原価率を 46.7%に設定し、通期で 46.3%といたしました。また、上期は販管費、研究開発費とも、よくコントロールできましたので、通期でもそれぞれの公表値からマイナス 10 億円としております。以上により、営業利益を当初予測から 30 億円上方修正し、900 億円といたします。なお、為替については不透明な部分もありましたので、下期は期初の予測レートを据え置いております。

予想配当額



● 期初予想から配当額は変更なし、増配

	中間	期末	年間	配当性向
2024年3月期	42円	42円	84円	35.4%
2025年3月期(案) ※2024年4月1日に3分割を実施	15円	15円	30円	34.3%

※2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っていますが、2024年3月期については当該株式分割前の実際の配当金の金額を記載しています。

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

27

27 ページへお進みください。配当に関しては、期初から変更はございません。

中計経営計画について



従来の『3年計画2年ローリング方式』から『3年固定方式』に変更

変更理由

- ・ 2033年度のありたい姿からバックカスティングした長期経営戦略の実現に向け、中期経営計画に基づき各施策を推進中
- ・ 3年固定とすることで、目標達成状況の明確化および戦略の実効性を高め、株主や投資家の皆様との円滑な対話の実現・責任を明確にする
- ・ 中計最終年度（3年目）となる来期業績目標は、為替などの外部要因および今期の進捗を鑑み、2025年5月決算発表時に詳細な内容を説明予定

28

28 ページへお進みください。最後に中期経営計画に関してです。現在の中計は2023年度から2025年度の3年間となっております。従来はこの中計を2年ごとに見直すローリング方式を採用しておりましたが、この方式ではどうしても3年目、中計の最後の年の結果が曖昧になるという問

題点がありました。3年間の中期経営計画を、できたこと、できなかったことを明確にするために、このたび中計を3年の固定方式へ変更いたします。

したがって、新しい中計は2026年度からのスタートとしたいと思います。もちろんこの間、為替をはじめ、環境変化も起こっておりますので、今年度中に必要な見直しを実施いたします。その詳細につきましては、2025年の5月の決算発表のときにご説明したく思っております。

以上でございます。どうもご清聴ありがとうございました。

以上